

防災を考える ゴミ袋で作る簡易トイレ

11.27 町ぐるみ大清掃、ごくろうさまでした。

排水管損傷の可能性を高める大地震直後は、トイレは絶対に流してはならないとされます。溜めておいた水などをバケツで流すと階下のトイレから汚水があふれてしまい、1, 2 階の住民にとってはたまったものではありません。そこで、ライフライン復旧の確認がとれるまで、簡易トイレを使うことになります。



簡易トイレのつくり方

ゴミ袋 2 枚（45L、なければ 30L でも可）
新聞紙 （なければ雑誌などの紙類、おむつなど）

便器にゴミ袋をかぶせる

トイレの蓋と便座をあげ、便器にゴミ袋 1 枚を広げて被せます。これは水濡れを防止するための対策です。



トイレの便器にゴミ袋をもう 1 枚かぶせる。

便座を降ろし、もう 1 枚のゴミ袋をすっぽりと覆うように被せます。これは用を足すためのゴミ袋となります。



新聞紙を入れる

新聞紙をちぎって適度に入れば簡易トイレの完成です。新聞紙をいれることで水分を吸ったり、中身が見えにくくする目隠し効果があります。



結んで捨てる

用を足したら、便座に被せたゴミ袋だけを外し、口を結んで捨てます。災害時でゴミ収集が機能していない場合などは、自治体からアナウンスがあるまで自宅で保管しておきます。

便座に新しくゴミ袋を被せ、新聞紙を入れたらまた利用できます。

画像は日本サニパックの消臭ポリ袋「ニオワイナ」
化学的消臭によりにおいを中和し、におい成分自体を消します。即効性が高く、においが再放出されません。

<https://www.sanipak.jp/series/niowaina.html>

お配りした保存水と非常食は防災訓練を実施することを条件に防災助成金で購入したものです。今回はコロナ感染者増加をかんがみ、防災計画書とこのプリントを読み込み防災を考えていくことで訓練とします。

なお 13:00 より 3-101 団らん室の話し合いのなかで簡易トイレを実際に作ってみたいと思います。3号棟の方だけでなく、お時間のとれる方はご参加ください。